

残薬解消に向けた服薬支援の取り組み

総合メディカル株式会社 そうごう薬局鹿角店¹、高田店²、盛岡つなぎ店³
小島祥一¹、白井秀徳²、村田仁美³

【目的】

近年、残薬削減の取り組みが強化されているが、患者の服薬状況が改善しなければ、再び残薬が発生する可能性がある。今回、残薬が発生しない状態にすること、すなわち残薬解消を目指して、患者や多職種にアプローチを行い服薬支援の取り組みを行ったので報告する。

【方法】

2017年1月～6月に秋田県、岩手県のそうごう薬局9店舗に来局した患者を対象とし、残薬バックの配布、窓口での薬剤師の服薬指導、他職種からの相談により、残薬のある患者を把握した。そして服薬状況について、原因を分析し残薬解消にむけた服薬支援を実施し、介入後に服用状況の改善を調査した。

【結果】

残薬があることを確認した患者数は116名であった。残薬の把握方法は、残薬バック配布による把握が79件、服薬指導で判明したものが9件、ケアマネージャーやヘルパーなど他職種からの情報が28件であった。残薬の原因は、用法通りに服用出来ない等、服用管理能力の低下による問題がほとんどであった。服薬支援の方法は、患者の状況に応じて、一包化や1日1回服用薬への変更、用法の統一等の処方提案、介護職への服薬支援に向けた協力の依頼を行った。

介入後に残薬解消を確認できたのは24件あり、うち11件が他職種から把握した事例だった。残薬解消した事例の中には、すでに一包化しているにも関わらず残薬が発生していた例が6件あり、処方提案や、薬剤の管理方法への介入を必要とした。また、介護職の声掛けや薬剤セット等の支援、訪問指導など多職種連携を必要とした事例が7件あった。

【考察】

今回、ケアマネージャーなどからの残薬を把握した事例において、多くの残薬解消が得られた。要因として、服用管理状況、生活状況等の客観的情報を詳細に把握できたため、改善策を具体的に設定出来たことが挙げられる。残薬を解消していくためには、調剤方法や服用方法への介入のみならず、多職種との連携が一層重要であると考えられる。